

## 第五十六回卒業証書授与式及び第二十八回修了証書授与式 式辞

準学士課程卒業生 205 名、専攻科修了生 31 名に教職員を代表してお祝いを申し上げます。また、これまで長きにわたりご支援を賜りました保護者ならびに関係の皆様は厚く御礼を申し上げます。

皆さんは難関の試験に合格して鈴鹿高専に入学されました。しかし高専生活には躓きや悩みもあったと思います。特に最後の二年間は新型コロナウイルス感染症による予期せぬ不自由に直面されました。これらを乗り越えて卒業、修了される皆さんに心より敬意を表します。今皆さんの前には、それぞれの新しい景色が見え始めていることでしょう。この門出にあたり、今後のご活躍を祈念して、高専を「今」卒業することの意義をお話したいと思います。

産業界の強い要望で設立された高専は来年度 60 周年を迎え、伝統ある一期校の鈴鹿高専は創立 60 周年記念事業を行います。高専の卒業生はこれまでも社会から高く評価されてきましたが、産業構造が急速に変化した今日、高専にはこれまで以上の大きな期待が寄せられています。例えば人工知能の研究者である東京大学の松尾豊先生の言葉「イノベーションに必要な素養と高専の教育が一致している、この日のために高専があると言ってもいい、高専生は日本の宝だ」というエールは私たちの胸に強く響きます。高い評価の一つは勿論高専の設立目的である実践的技術者教育です。皆さんは社会に出ると例外なく、同年代の技術者と比べて圧倒的な実践力が身につけていることを実感されるはずです。高専卒業生の優れた技術力を誇りとし、そのことを前提とした上で、私はここで技術者に求められる資質をあえて別の観点でお話したいと思います。

文部科学省は 5 年前、高専卒業生を対象に卒業後の収入、職場での地位、仕事の満足度について高専在学時の何と相関があるか調査しました。強い相関があったのは、高専での学業成績やものづくり能力に加えて、友人満足度でした。つまり個々が尊重される多様性の時代と呼ばれる今日でも、やはり他者との関わりが重要だと卒業生は言っているのです。皆さんは社会に出ると、自分の個性を活かすと同時に他者の個性を尊重し、協働で目的を達成することの重要性を身に沁みて実感されるでしょう。その意味で、本校の建学精神である知・徳・体のバランスがとれた全人教育は時代と共に古びること無く、今一段とその輝きを増しています。この建学精神に則って皆さんが取り組んだ様々なことが、皆さんの素晴らしい個性と社会で協働できる資質の礎になっていることを認識して下

さい。そして高専で得意だったことには大いに自信を持って下さい。不得意なこととは必要になった時に学び直せば良いでしょう。

一つアドバイスをさせて下さい。先ず、仕事や勉学について目標を立てて全力で努力して下さい。明確な目標は大きなモチベーションになります。しかし私のアドバイスは、その目標だけに拘り過ぎないで欲しいということです。時代は大きく動いており、それほど遠くない将来、皆さんの多くが今は想像さえしていないことに取り組んでいるはずです。自分の様々な可能性を視野に入れて社会で一層自己研磨されることを期待します。

最後にもう一つ大事なことをお話します。高専に入学するのは同じ年齢のわずか1%ですが、高等教育機関で学んだ技術者の10人に一人が高専の卒業生です。皆さんは社会に出て、多くの高専卒業生が国内外で大活躍していることを知り、心強く、誇りに思うでしょう。またその繋がりが大きな財産であることを実感されるはずです。

私たち教職員は、皆さんの人生の最も大切な成長の時を共に過し、喜びや苦勞を分かち合えたことに心から感謝しています。これからの社会は誰も想像できない未知の世界ですが、それだけ大きな可能性があります。卒業、修了される皆さんがその最前線で活躍されることを信じて疑いません。皆さんの活躍を心から願い式辞とします。

令和四年三月十八日

鈴鹿工業高等専門学校長  
竹茂 求